

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における  
上津役 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 上津役 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

#### ・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

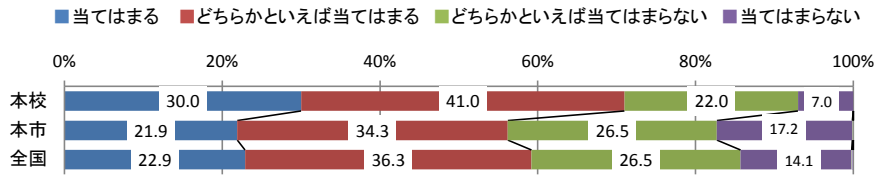
### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無回答率は低い傾向にあり意欲は高い。</li> <li>・故事成語を苦手とし、言語における知識・理解を高める必要がある。</li> <li>・国語科全体に指導の強化が必要。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字は、よく書けている。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く」「書く」「読む」「言語についての知識・理解・技能」の領域において努力が必要。</li> </ul>
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無回答率は低い傾向にあり意欲は高い。</li> <li>・全国平均と同じ傾向であるが、「分かったことや、疑問に思ったことを整理し、それらに関係づけながらまとめて書く」ことの正答率が低い。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均には達していないが、2つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えることは、全体的によくできていた。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く」「書く」「読む」「言語についての知識・理解・技能」の領域において努力が必要。</li> </ul>
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を上回り、意欲も高い傾向にある。</li> <li>・体積や円周を求める等、図形についての正答率が良好である。</li> <li>・割合が1より小さい場合の問いの正答率が低く、割合に関する問題を苦手としている。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算問題はよくできている。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位量当たりや割合の考え方による問いに努力が必要。</li> </ul>
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無回答率は低い傾向にあり、難しい問題でも諦めずに解こうとしている。</li> <li>・A問題と同じく割合を使った問いを苦手とする。</li> <li>・問いに示された情報を整理したり、関連付けて、問題解決することが難しい。</li> </ul>
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2位数)×(1位数)の問題はよくできている。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・示された情報を活用し、順序よく考え、説明したり、答えを出したりする問いに努力が必要。</li> </ul>

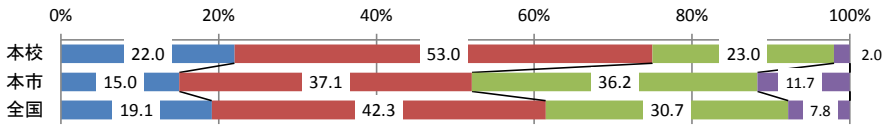
### ③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

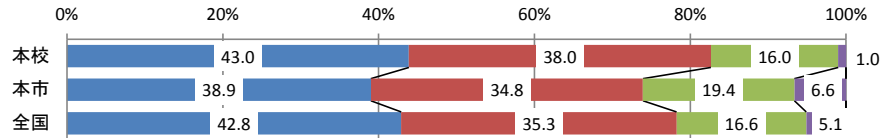
50
国語の勉強は好きですか



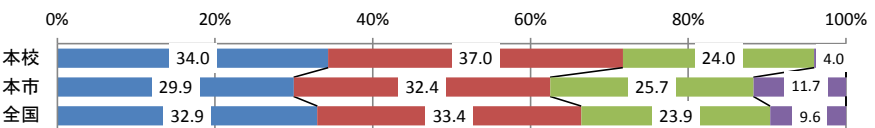
55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



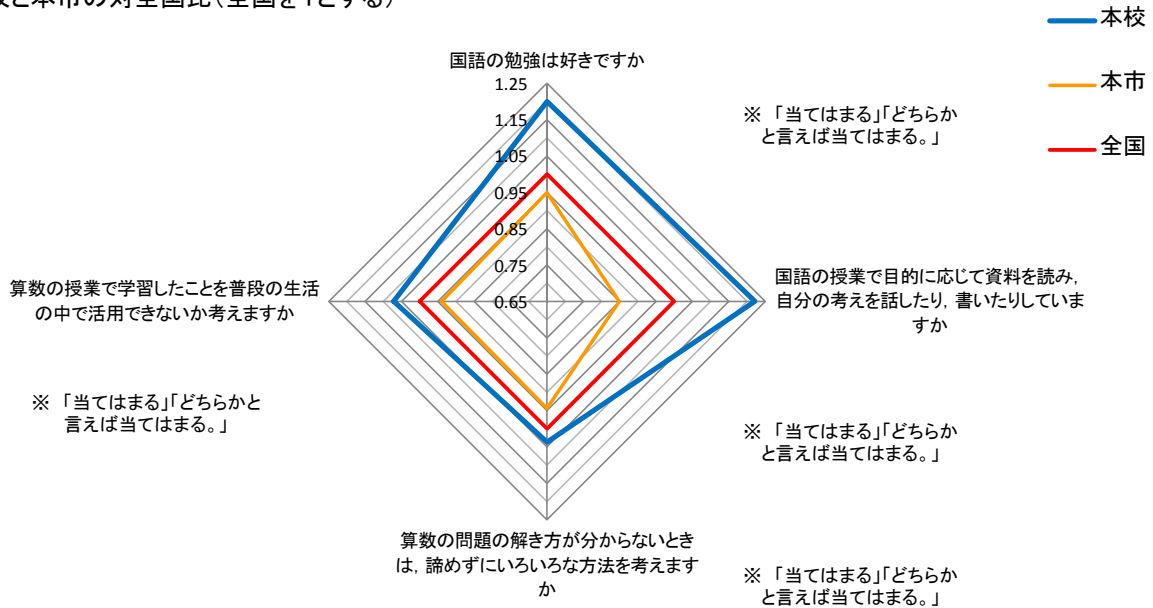
66
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



67
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



### ④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



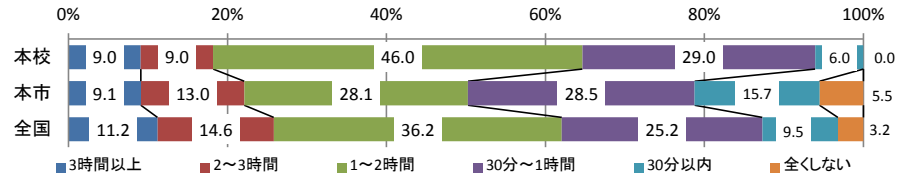
### ⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・「国語・算数の勉強がすき」と思っている児童が全国平均を上回り、熱心に学習していることがわかる。
- ・国語科の「書く」活動では、70%以上の児童が自分の考えが書けている。
- ・算数科では、新しい問題に出会った時でも、諦めずに色々な方法で考えようとしていたり、普段の生活でも算数を活用したりしようとしている。
- ・特別活動や総合的な学習の時間等でも、「子ども同士で話し合う」「日記を書く」「情報を整理する」等「考える」「話す」「書く」「整理する」といった経験を積み重ねてきた成果で、説明する活動や問題を解決する活動に抵抗を感じている子どもは少ない。
- ・学習に対する意欲がとても高く、今後も引き続き、基礎的・基本的な学習内容の定着と教科の学習に関連付けた教育活動を仕組む。

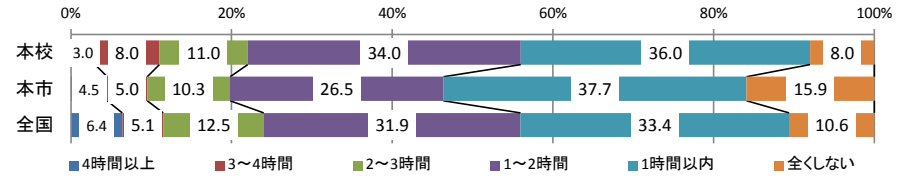
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

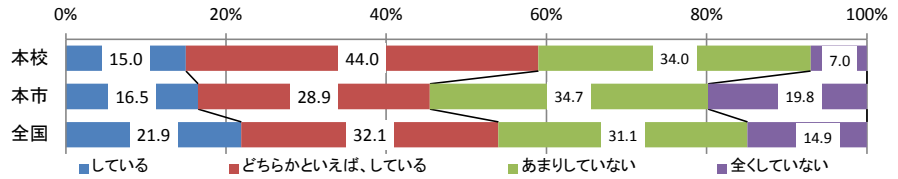
14  
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



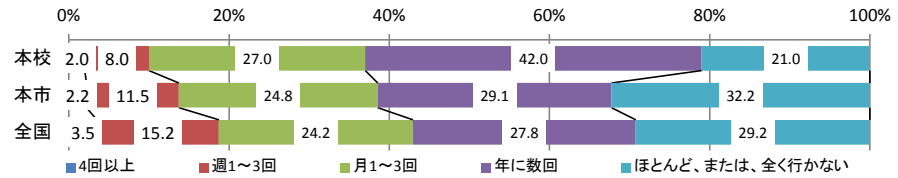
15  
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



24  
家で、学校の授業の復習をしていますか



18  
本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館にどれくらい行きますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



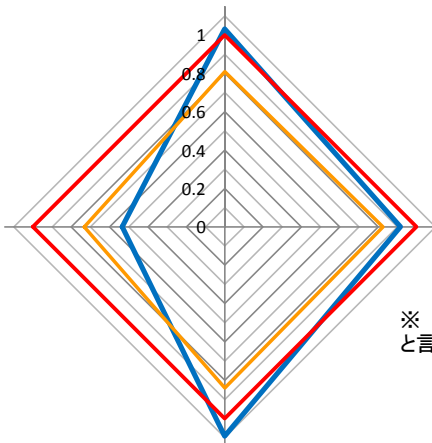
### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

— 本校  
— 本市  
— 全国  
※ 1時間以上

本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館にどれくらい行きますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

※ 「している」「どちらかといえば、している。」



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

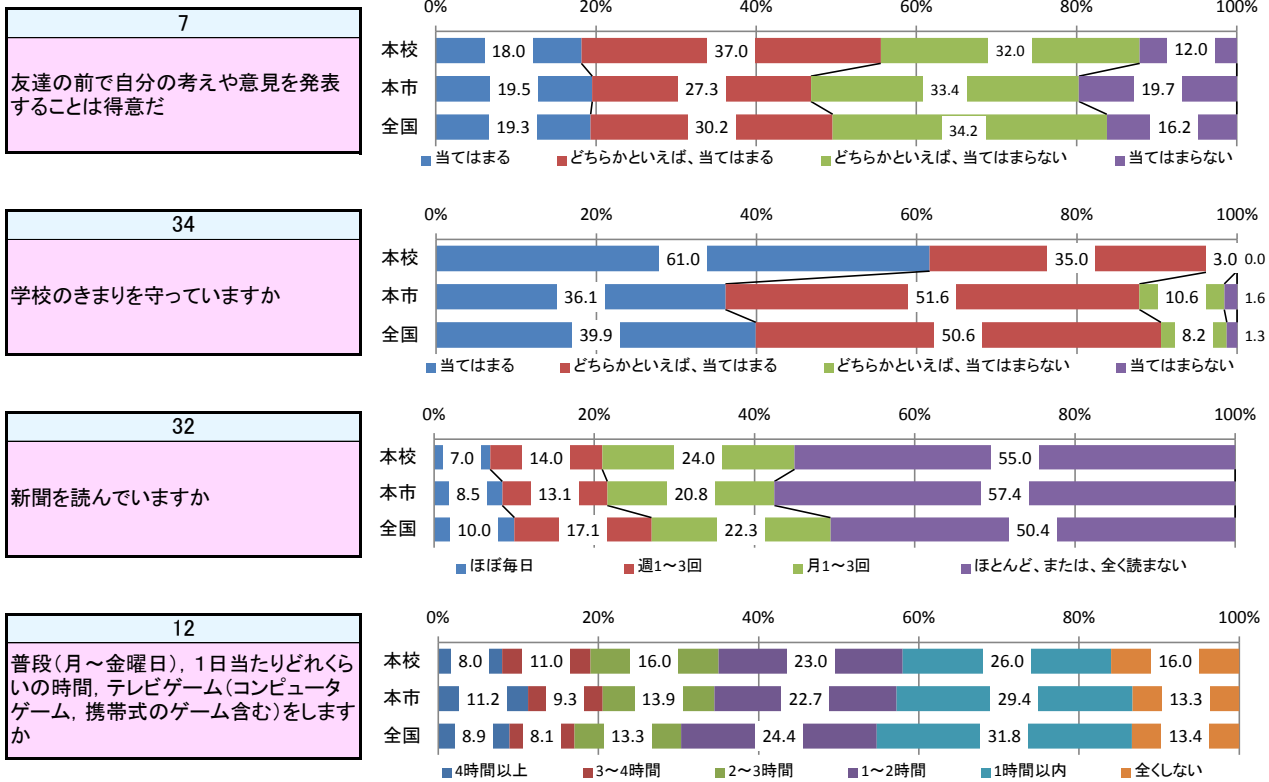
※ 「している」「どちらかといえば、している。」

家で、学校の授業の復習をしていますか ※ 「している」「どちらかといえば、している。」

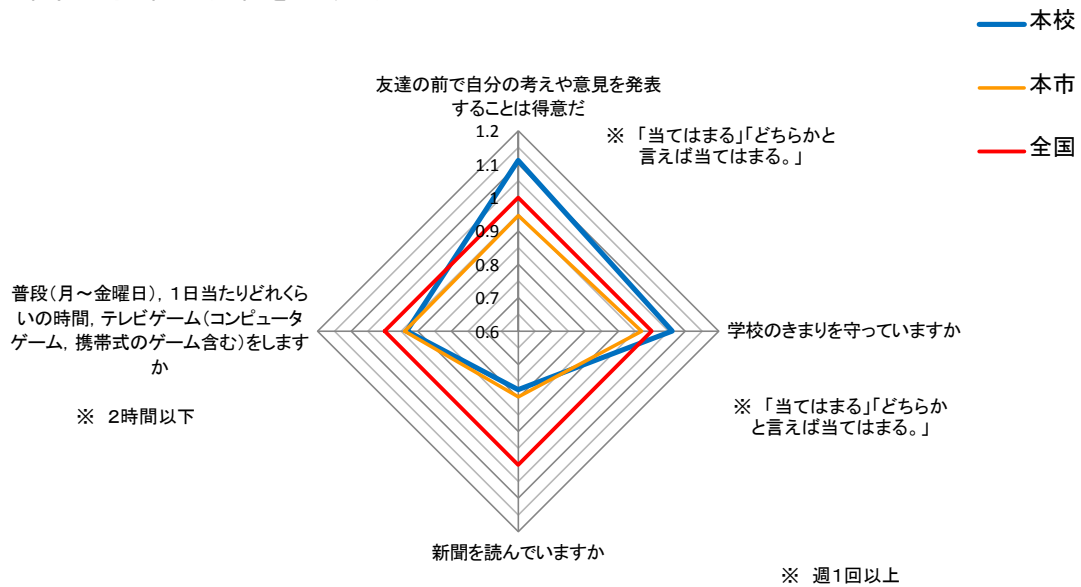
### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・宿題を含めた家庭学習を1時間以上行っている児童が90%以上おり、家庭学習の習慣が身につけていることがわかる。全国平均を上回り良好な傾向にある。
- ・学校や地域の図書館の利用が、全国平均を大きく下回り、学校の図書室の活用を呼びかける必要がある。
- ・本校児童の読書量は、年々増加傾向にあり、改善されてきている。読書の取り組みの指導を継続して行う。

#### ④ 生活習慣等に関する調査結果



#### ⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



#### ⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・学校のきまりをよく守り、友達と仲良く学校生活を送ることができている。
- ・学校での発表も自信をもって行うことができおり、自尊心も高い。
- ・コンピュータや携帯のゲームを「全くしない」「1時間以内」といった児童が約40%で、増加傾向にある。
- ・新聞を読んでいる児童が全国平均を大きく下回り、新聞を使った学習を仕組み、新聞の読み方等の指導が必要。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 研究主題を「算数科」に取り、どの児童もわかる授業を追求している。
  - ・学習の中で、児童にとってどの内容が難しいのかを分析する。その後、どうすればその内容がより簡単にわかるようになるのかを、教師の発問の仕方や黒板の書き方、教材の使い方等の観点から工夫している。
- ◎ 音読本「ひまわり」を活用し、暗唱を目指している。
- ◎ 読書活動推進の為の校時変更
  - ・毎日、全校一斉に、5時間目の前に10分間、読書タイムを位置付けている。
- ◎ 書くこと、話すこと、算数の基礎基本の定着の為に、朝自習の時間を活用し、全校一斉に「ひまわり等の音読」「計算」「視写」を曜日ごとに設定している。
  - ・火曜日…ひまわり等の音読、暗唱
  - ・木曜日…計算タイム
  - ・金曜日…視写タイム
- 計算反復学習を位置付け、速く、正確に計算ができるようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 生活がんばりカードやクラスの宿題カードで毎日の読書や家庭学習の時間を振り返るようにしている。
- ◎ 家庭学習について、児童には指導、保護者には啓発を行っている。
- 冬休みや春休みの家庭学習を充実させる。
  - ・冬休み・春休みの宿題に過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。
  - ・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。